

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 2

平成24年11月28日発行

東京都杉並区梅里1-22-32[社会教育センター内]TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.13

11月19日
昼コース

ゼミ活動始動！

小グループでの活動は アイデアが生まれやすい？



本日の日直の話は、受講生の山本さんからの「3色の富士山」の話。山本さんは異なる日に3度富士山を見たという。それぞれの富士山は、その時の気持ち(例えばブルーな気持ち)と情景(真っ青な空をバックにした富士山)を重ねて記憶されたという感性豊かな話であった。

自分の関心に分かれる意味とは？

さて前回の講座では、3つのグループに分かれて、それぞれに名前がつけられた。「実際にグループ名がつくと、今後の活動が続いていく様子が想像されますね」とは、学習支援者の松田さん。2012年度の大人塾は来年3月をもって卒業となるが、松田さんの話される通り、大人塾で生まれたグループが卒業後も地域での活動に続いていくとすれば、卒業は終わりではない。より広範囲の人たち(地域での活動に関心がない人など)を巻き込むための一区切りとも考えられる。地域での活動に関心のない人を活動に巻き込むためには、自分の関心を「見せる」ことが肝になってくる。まさしくだがしや楽校で学んだ「自分みせ」の原理そのものだ。現在の関心ごとのゼミ活動は、その土台づくりにもなっているのかも！？



受講生の吉田さんから、里芋のところがしのおすそわけ

小グループゼミ活動の第1回目！

さて、さっそく関心に分かれてのグループ活動。実際の活動としては、今回は1回目。それぞれのグループでは、前回つくった計画をもとに活動を開始。『きょうりゅう倶楽部』では、さまざまなカフェやサロンなどのチラシを各自集め、それらをもとに自分店とコミュニティカフェの違いや共通点などを話し合っていた。また、『わづくりの会』では、本物のりんごとマシュマロなどを使って、サンタクロース人形をつくった。作り方をみんなで覚えて他の人に伝えていくという計画だ。さらに、『だがしや楽校 物語』では、具体的なインタビュー先の選定を行い、その後、『わづくりの会』のサンタ人形とコラボし、折り紙でサンタをつくった。(詳細は下記参照)

少人数のグループに分かれたことで、ひとりひとりの話がより活発になり、「こうしてみたらどうかしら」、「それなら私はこの部分の役割をするわ」といった行動に結びつく会話がなされていたよう。これが、講座の範囲を超え、地域へとどうつながっていくのか、楽しみだ。

また、次回の講座後には、セシオン杉並内のショーケースをクリスマスにちなんだもので飾りつける予定！(坂本)

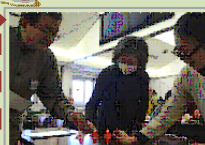
ゼミ活動の軌跡①



きょうりゅう倶楽部

コミュニティカフェをつくる！

- ・細田工務店でできないか
- ・杉並で取れたもの(みかんジャム、竹パウダー等)をアピールしたい
- ・他にワークショップなんかも？
- ・手作り、エコなものをテーマに



だがしや楽校 物語

ニコニコロード商店街を紹介！

- ・ネコ目線で楽しく描く
- ・写真やイラストを織り交ぜながら形にする
- ・取材する店舗の選定



わづくりの会

得意技を広める！

- ・真っ赤なりんごとマシュマロがサンタに変心

僕は、本物のりんごで
できているんだよ～



実施ワークショップ決定！

11月15日
夜コース

参加者に何に気づいてもらいたいかを、考えてください

秘伝！ワークショッププログラム開発シート

ワークショップの内容や題名を考える際に重要なことは？今回は、配布された「ワークショップ開発シート」の説明とともに、ワークショップを創る際の重要なポイントについての、広石さんの講義からスタートした。まず対象者を決める＜焦点を絞る・私に関係あるわ！と思わせる＞ワークショップ後にどんなふうに変化してもらいたい？＜自分で気づくことが、人に言われるより強い！＞これを押さえたうえで、変化を起こすために、どんな体験を提供すればよいかを考えていくのである。

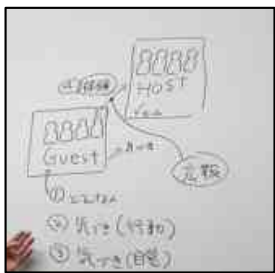
5つのワークショップが決まる

講義のあとは、ワークショップのチームを考える話し合いが再開された。そこで2つの新たなワークショップの提案がなされ、メンバー募集後、正式なチームとして決定。結果、右の5つが、1月27日に実施されることになった。

広報原稿作成に向け、話し合い開始！

いよいよグループごとで話し合いが開始。まずは開発シートを埋めることに専念する受講生の皆さん。内容が決まらなくては、広報をつくることはできない。ただ、それぞれ強い分だけ、なかなか意見の合わないチームも。そんな中で、話し合い、納得してチームを作り上げていく過程が、勉強でもあり、醍醐味でもあるのだ。

広報文は、わかりやすい短文、はっと目にとまるようなものを作るのが重要。内容を考えるのとはまた違う頭(思考)を使うのである。参加者に気づいてもらいたいことを軸に、何を实际行うのか、その行うことを魅力的な文章で表現し、参加者を募集する。この流れで、次回までに広報原稿を考えてみるのが宿題となった。



5チームとなった今年度のワークショップ。どんなプログラムがとびだしてくるか。乞うご期待！（湊）

ワークショップでのホストとゲストの関係性

チーム名とワークショップの目的

感性チーム
ふつう使わない

言葉を使わずに他者とのコミュニケーションをとる体験を通して人に伝える力や感受性を磨き、自分にもこんな力があるという発見をしてもらう



杉並の農を身近に感じる体験をするなかで、農や食の大切さを知ってもらう



高齢者が今までの人生を振り返り、文集などで記録したり、表現する活動から、自分が残したいことがあること知ってもらう

高齢者の記録

ご近所コミュニケーション



ものづくりチーム

廃材による日曜大工や、端切れでの和裁などのものづくり体験から、もったいないという気持ちや、物を大切にする心に気づき、同時にものを作る大人になってもらいたい



今月の大人“塾っ人”

大人塾に参加中の...イカした！大人たちに聞きました！
出身 座右の銘、好きな言葉 自分のつながりPR

杉下 寛樹

北海道 多様性
音楽、街歩き、そして色々な人と話するのが好きです。
(12月1日 13:30~、小杉湯でイベントやります！)



□すぎなみ大人“熟”してる？の発行にあたって□

この新聞は事務局スタッフ松坂・坂本・湊の独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。